

## 咽頭結膜熱・アデノウイルス感染症

今シーズンは全国的に咽頭結膜熱の大流行が報じられました。埼玉県も例外ではなく、感染症発生動向調査事業開始以来の大流行となりました。衛生研究所に搬入されたアデノウイルス関連の検体も例年に比較し倍増し（表1）、9月3日現在までに臨床診断名「咽頭結膜熱」が36検体、「アデノウイルス感染症」が9検体搬入されました。2001年～2003年の咽頭結膜熱以外のアデノウイルス感染症は、肺炎、扁桃炎等様々でしたが、今夏はほとんどが咽頭炎でした。分離されたウイルスを図1、図2に示しました。例年アデノウイルス3型が分離ウイルスの多くを占めていますが、今年は3型以外のアデノウイルスも多く検出されています。また、「咽頭結膜熱」、「アデノウイルス感染症」と診断された検体のどちらからも、アデノウイルス以外のウイルス（エコーウイルス6型、コクサッキーウイルスA2型、A9型など）が検出されており、大きな流行の中には、アデノウイルス3型による咽頭結膜熱以外の疾患も含まれているように思われます。

表1 アデノウイルス関連検体数

臨床診断名	2001	2002	2003	2004年
咽頭結膜熱	18	9	15	36
アデノウイルス感染症等	5	3	11	9

図1 咽頭結膜熱患者からのウイルス分離数

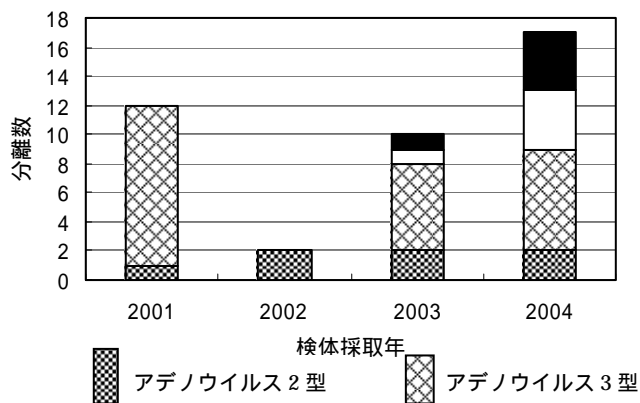


図2 アデノウイルス感染症からのウイルス分離数

